

第3回「次世代育種」促進研究会概要（要旨）

1. 日時：平成23年1月19日（水）14:00～16:00

2. 場所：日林協会館 3F 大会議室

3. 議題：「次世代育種」促進研究会中間報告（案）について

4. 出席者の主な発言内容

- ・原種の配布価格については、当然開発経費がかかると思うので、差別化はやむを得ないのではないか。
- ・種子の価格は苗木の生産費のわずかな部分であるので、自信を持って開発されるのであればそれなりの価格でかまわないのではないか。
- ・育種の場合、直ぐには結果が出ないので、きちっとした長期の目標設定を責任を持って決めていき、各関係機関の皆さんに参加していただくということが重要である。
- ・20年後にこんな木を植える予定ではなかったと言われたいよう、明確な目的生産を行えるようどこが良いのか苗木の特徴を明確にしておく必要があるのではないか。
- ・エリートツリーを提案する時に併せて伐期の提案をすべきである。
- ・造林地の見直しをする際に、特に問題となっているのは、植栽本数や下刈りの回数である。エリートツリーになると、植栽本数も減り、下刈り回数も省略できるということになり、林業体系が大きく変わってくるだろう。
- ・第二世代の普及について、都道府県によって温度差がある。やる気がある県は県が増殖を担い、そうでない県は民間がやるということになるのではないか。

※ 中間報告案は了承された。